

お祝いの言葉

●エデンの園に入って40年 田辺今朝治

僕がエデンの園の40年の中で、一番楽しかったことは第1回たぼうし宮崎コンサートに詩が入選したことです。詩の題名は「太陽」でした。今、その詩をおぼえていませんが、感動は覚えています。詩に桜木さんのお母さんが曲をつけてくれて、市民会館で歌ってもらって、表彰されました。けど「うれしー」と声を出して喜ばませんでした。どうしてかと言うと、(エデンの園では)ぼくだけ入選して、みんなが入選しなかったからです。



●40周年によせて エデンの園家族会会長 村木佐知絵

エデンの園がこの三名に開園して40周年を迎えられた事、誠にありがとうございます。また、昨年は第38回全国盲重複障害者福祉施設研究大会が宮崎で開催され、全国から参加頂き、意義ある大会が出来たこと、おめでとうございます。

さて、三名は私が幼かりし日々、夏休みの期間ずーと滞在し優しい祖父母と鶏の飼育の手伝いをしたり、川や田んぼで遊んだりと楽しい思い出の詰まった地でした。この懐かしい地で縁があり、息子が生活するようになり17年がたとうとしています。

この間、制度は措置から契約へと利用者の取り巻く環境も変わってきましたが、「エデンの園ふれあい」の開設、また歴史の古い施設故の問題、高齢化してきた利用者のため的高齢者棟や、グループホームができ、家族の悲願でしたので皆、安堵いたしました。そして放課後デイサービス「麦わらぼうし」、就労移行支援B型事業所「つむぎ」等々、エデンの園も大きな福祉法人となりました。

しかし40年変わらないのは、家族会を毎月第3土曜日に開催し、出席率は毎回7割です。これを開催するには、エデンの園の並々ならぬ努力があつてのことだと思えます。

家族会を継続することで、園との親近感、家族同士のつながり、また、利用者さんも家族に会えるこの日を楽しみにしています。



毎月家族会を開催している施設は全国的にも数少なく、一年に一回総会だけとか半年に一回とか、全くないところもあります。全国大会でよく聞かれるのが高齢化で役員になる人がいないので、家族会が存続できない。また、宮崎県の施設でも家族会が休止したところもあると聞いています。

エデンの園家族会の役員は、親以外にも兄弟姉妹、いとこさんとかが、本当に良く貢献していて誇れる仲間です。

私達家族会は、今後もエデンの園と共に、利用者さんの生活がより快適なものになるよう、力を合わせて行きたいと思えます。

●祈りのともしび エデンの園ふれあい 甲斐正人

平成30年4月1日、エデンの園は創立40周年を迎えた。初代理事長 中島茂先生は宮崎大学教授、西南女学院短期大学の学長を歴任された方だ。又、初代施設長は、全盲という視覚障害がありながらも県立盲学校で教鞭をとっておられた教育者であり、それぞれが敬けんなクリスチャンであった。現在の川越瑞枝理事長もエデンの園の母体である「障害者と共に生きる会」の事務局長として園の創設に心血を注いでこられた信仰者である。

私達職員は当施設が開設に至るまでに、多くの方々のご支援、ご協力、祈りに支えられてきたことを忘れてはならない。宮崎清水町教会を始め、全国の教会の祈りの血潮がエデンの園の根底には脈々と流れている。園の各事業所が朝礼の時に「主の祈り」や讃美は現在も守り続けられている。また、施設の「土曜学校」は主イエスキリストとふれあう大切な時間だと私は思う。今後も消える事のない「祈りのともしび」をかかげ当事業所を利用される方々がいつも喜び、笑顔で生活して頂けるよう職員一同、心を合わせ支援に臨みたいと考える。

創立40周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。



それぞれの事業所から

● エデンの園 (障がい者支援施設)

一歩一歩前進

エデンの園40周年おめでとうございます。これまで、様々な社会情勢・法律や制度の改正などあった事と思いますが、皆様のご理解とご協力、何より利用者の皆さんの力をお借りしここまで来ることが出来ました。40年前というと日本でもようやくノーマライゼーションの理念が世に出たところでしょうか。当時の広報誌を読み、写真を見るとエデンの園もこの理念を掲げて懸命に歩もうとしたのだなーと感じます。40年が経ち、入所施設は高齢化や重度化が進んでいます。一方で福祉人が充足できない状況もあります。しかしそのような中でも一人ひとりの利用者としっかり向き合っ、先人が掲げたノーマライゼーションの具現化を一歩一歩進めたいと思います。誰もが共存していく「地域づくり」に貢献できるそんな施設を目指して行きたい思います。皆様今後とも宜しくお願いします。

指導員 谷 口 博 孝



● 麦わら帽子 (放課後等デイサービス)

10年後の子ども達

エデンの園は、今年で創立40周年を迎えました。その歴史の中で、麦わらぼうしはわずか2年しかたっていませんが、これからも一歩一歩進んでいきます。エデンの園が50周年の節目を迎えたとき、今いる麦わらぼうしの子ども達は17歳から22歳へと成長しています。その頃は、ちょうど将来に向けて進路の選択や、社会への第一歩を踏み出す時期でもあり、様々な悩みや戸惑いを感じているころかもしれません。その時に、「どうせ無理だ」と諦めるのではなく、「やってみよう」と自分の中にある可能性を信じて挑戦し、自己実現をしてほしいのです。その為にも、私たちができること、やれることを考えながら支援していきたいと思えます。ご家族同様に、子どもがどう成長していくのか、今からとても楽しみです。

指導員 日 高 陵

● グループホーム (のぞみ・みらい・青い鳥・いこい)

創立50周年に向けて

エデンの園創立40周年おめでとうございます。現在グループホームは4ホーム23名で運営しています。ホームみらいは男性8名の大所帯、いぞという時は一致団結力がああります。いこいの家は男性4名、個性的なメンバーがゆっくり過ごされています。のぞみの家は女性4名家庭的な雰囲気の中で生活しています。青い鳥は男性7名個々のペースでゆっくり過ごされています。

在宅又は、施設利用の方の中には「グループホームで生活したい。」との声を聞くことがあります。ホームを増やしてグループホームで生活していただきたいとの思いはありますが、様々な問題を解決していく必要がありますし、利用者の高齢化により介護や医療機関と連携する必要が出てきています。

創立50周年に向けて、これらの課題を一つ一つ解決しながら、利用者が楽しく生き生きと生活する場を伴い作りたいと思っています。

グループホームチーフ 町 田 紀 恵





● つむぎ (就労継続支援B型事業所)

「つむぎ」の未来

平成30年10月で開所して半年が過ぎました。現在、ホテルでの清掃作業、部品の組み立て、スーツズボンの仕立て、綾町内での農作業の補助作業、法人内の除草作業や清掃作業を行っています。特に力を入れているのが、地域外や地域の方たちとのつながりを最も大切にしています。今は一部の地域外の方や地域の方たちのつながりしかありませんが、年を重ねながら、少しずつつながりを持ち、

「つむぎ」が地域の高齢者や子供たち、農家さん、企業の方に必要とされる事業所になりたいと考えています。

就労移行支援B型事業所 「つむぎチーフ」 徳原 潤

● エデンの園ふれあい (生活介護事業所)

10年後も健康で

ふれあいでは、様々な活動を行っていますが最近力を注いでいるのは、「ウォーキング」です。施設周辺や、雨天時も利用可能な体育館のウォーキングコースを利用しています。体育館を利用する際は1周230mのコースを、約1時間掛けて10周程歩きます。今後、確実に利用者の皆さんの高齢化が進むことが予測されている中、体力、機能維持を図る事により、10年後のエデンの園50周年記念式典の頃も元気に、生き甲斐の幅を維持、拡大出来るように、日々努力していきたいと思えます。

地域福祉課 課長補佐 日高 武 敏



● じょいほっぷ (地域貢献事業)

創立40周年を迎えて

「子どもたちくる？」…Sさんの質問から始まる一日。「学校が終わったら来るよ。待ちよってね」と答える。到着時間に合わせて玄関で待つ人、握手で出迎える人、「僕を切ってね。」とおもちゃの刀を持って待つ人…。「〇〇さん、こんにちは。」と挨拶し、慣れた手つきでひとり一回ずつ切っただけの子どもの姿に、微笑ましさを感じずにはいられない。子どもの好きな利用者がたくさん。園内で遊ぶ子どもたちの姿を見た利用者に笑顔があふれる。

地域貢献事業「じょいほっぷ」は3年目を迎えた。3年生の男女2人から始まったこの事業。先が見えずに立ち止まっていた時期もあったが、まかれた一粒の麦(ほっぷ)は徐々に増え、今は10名の子どもたちが音楽室を所狭しと駆け回っている。子どもパワーは凄い!!目下、少々高齢?の担当者は身体に鞭打ち?つつ、奮闘する日々である。

じょいほっぷ担当 五島 千恵子



● エデンの園 (総務課)

創立40周年を迎えて

無事に40周年を迎えることができたことに感謝しております。この間に、事務所から総務課に呼び名が変わり、仕事の内容も広がりました。しかし昔も今も法人の「縁の下の力持ち」的な存在です。地味で目立たなくても、無くてはならない存在であり続ける努力を怠らず、利用者みなさんが安心してエデンの園で生活し、利用していただけるよう誠実に仕事と向き合い、日々頑張っていきたいと思えます。「総務課の仕事って地味だけど、頑張ってるね。」と、言っていただければ幸いです。

総務課長 陶山 康子



相談支援の窓から その3

相談支援専門員 長 友 真佐子

秋ですね。秋と言えば何を思いつくでしょうか？

食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋・・・いろいろと出て来るのではないのでしょうか？社会福祉法人エデンの園創立40周年を迎えるにあたって、いくつかの事業所で「旅行」を企画されています。そう、行楽、旅行の秋でもありますね。

私の好きな詩の一つに、「オランダへようこそ」という詩があります。障がいをお持ちのお子さんを育てている方が読まれた詩のようです。ぜひ、インターネットなどで検索し、読んでみてください。（賛否両論あるとは思いますが・・・）心の旅が出来るかもしれません。

さて、相談支援のある研修で、「Be a driver」というフレーズがありました。コマーシャルで耳にしたことがある方がいらっしゃるかもしれませんが、車会社のマツダの宣伝文句です。相談支援は、とかく相談支援専門員が主導して（ドライバーになって）サービス利用などを進めがちです。しかし、本来は、「利用者がドライバー（運転手）」になり、相談支援専門員は、目的地までの「ナビゲーション（案内役）」の役割をするのが良い支援の仕方とされています。

これから、私たち相談支援専門員は、利用者やその家族と、目的地までの素敵な人生のドライブや旅が出来るよう、研鑽を積んでいきたいと思っていますので、宜しくお願い致します。



土曜学校メッセージ

金垣基牧師（宮崎めぐみ教会）、印慶子牧師（宮崎柳丸キリスト教会）
海老原直宏（宮崎北聖書キリスト教会）、荒平大輔牧師（宮崎北聖書キリスト教会）
浅野謙牧師（宮崎霧島キリスト教会）、山口英希牧師（宮崎清水町教会）

寄贈品・寄附金ありがとうございます。（7月～9月）

甲斐節子様、ライフサポート様、甲斐加代子様、佐藤律子様、飯干誠夫様、横山時義様
黒木しおり様、うからの里様、コスモ設計様、原田鮎美様、韓国プサン教会様、
韓国花園教会様、渡部工務店様、宮王丸郵便局様、都城音訳・点訳友の会様、湯地ひろ子様、
野口英郎様、深野証美様

ボランティア（7月～9月）

韓国プサン教会様、韓国花園教会様、長友絢音様、家族会有志様、本庄高校学生様（7名）
甲崎圭一様、兒玉賢樹様

編集後記

創立40周年おめでとうございます。

写真の若かりし頃の利用者さんや職員の躍動感あふれる姿は、その時代を知らない私にとっても刺激的でした。何もないところから、一人ひとりが熱い思いをもって尽力くださったおかげで、今日のエデンの園があることがわかりました。そのことに感謝するだけでなく、わたしたち若い世代が、覚悟をもって新たな時代を切り拓いていきたいと存じます。これからも一粒の麦をお読みください。

寺田 法子

